

# 松っ子だより

平成27年8月27日(木)

松沢小学校だより No.7

文責：校長 星 俊 夫

## ☆第2学期がスタートしました。

2学期がスタートしました。夏休み中大きな事故や病気なども見られずホッとしました。48名の子どもたちそれぞれが充実した夏休みを過ごしたものと思います。無事に夏休みを終えることができたのも保護者や地域の皆様に温かく見守っていただいたおかげです。ありがとうございました。

長い学期が始まりましたので、今後もセーフティ(安全・安心)を基本とし、子どもたち一人一人の学ぶ力と豊かな心を伸ばしていきたいと思ひます。ご協力お願いいたします。



## ☆どんぐり班でいもほりをしました。

26日の朝の時間に、どんぐり班と先生方で学校畑のイモほりをしました。今年は、夏場暑い日が続いたので、大きくおいしそうなイモが沢山とれました。さつまいもやかぼちゃも収穫しました。収穫した野菜は、恒例の秋の自然に親しむ会で、おいしいイモ煮の材料になります。

「おじいさん、おばあさんにご指導いただきながら、自分たちで育てた野菜を秋を感じながら身近な自然の中で調理し食べる」という活動は、都会の学校から見れば、大変贅沢な活動ではないでしょうか。改めて、子どもたちを包む豊かな地域の環境が存在していると感じますし、ありがたい感謝の思いがあふれてきます。それに応えるかのように、48名の子どもたちは生き生きと本当によく働きます。それが子どもたちの強みです。どんなことに対しても協力し合って「一生懸命がんばる」こと、松っ子の伝統を確認しました。

## ☆「学ぶ力」は豊かな体験をとおして

「自立」という人生の大きな課題に立ち向かう子どもたちの「学力」を伸ばしていくことは学校の大きな目標です。そのために、1学期紹介しましたとおり、本校では全職員共同による授業研究をとおして指導力の向上に努めるとともに、「読書タイム」や「はげみタイム」など子どもたちの基礎的な力を高めるための場を設定し学校全体で指導しています。そして、単元ごとのワークテストやドリルの結果と、日常の授業やそれ以外での学習に取り組む様子をとおして評価をします。つまり、テストの結果だけでなく、さまざまな調査や資料により、一人一人の学ぶ力を総合的に判断しています。

ただ単に、テストの結果だけで「学力」というものを判断することは危険なことです。点数がよければ、社会に出たとき一人の成人として自立できるかということ必ずしもそうではなく、小・中・高校生や大学生などの年代に区別なく、想像もできないような事件や犯罪が起きているという事実があります。また、学校を卒業しても人生に目的をもてず職業に就けない若い世代の存在も今大きな社会問題になっており、国レベルでの対策が講じられています。

学んだ力を生かせない、学ぶ過程や環境で逆に自己を見失ってしまうような人が増えているということでしょう。

このような直接体験の減少や、体験の内容のバランスを欠いた状況が、子どもたちの成長に負の影響を及ぼしていることが懸念され、子どもたちの多様な体験活動の充実を図る必要性が指摘されました。

学校(教育)と社会(教育)とが相まって子どもたちの体験活動を促進していく観点から、学校教育法及び社会教育法の改正が行われ、体験活動に関する規定が明確になりました。

以上のようなことから、**学力を紙面上で表れる力ではなく、学ぶ力、学びとる力、すなわち「生きる力」であると再度認識し、身近な人・物・自然等との豊かな体験をとおしてこそ、その基礎が育まれるものであることをもう一度、再考していきたいと考えます。**

豊かな体験の場は、学校・家庭・地域等、子ども達が生活するすべてがフィールドです。子どもの話す言葉・行為が学びの要素であり、無駄な物は何ひとつありません。

例えば、日常の集団での遊びです。子どもたちは、遊びの中から様々なものを吸収します。少しでも楽しく遊びたいと思うからこそ、子どもたちの頭はフル回転します。ルールも自分たちで話し合います。小さな子や女の子がいればハンデを与えてやります。みんなが楽しむためには、仲間への思いやりが必要です。チームワークが必要なら責任感も身に付いてきます。身体と頭をいっぱい使った遊びをとおして社会生活に必要な力を身に付けていきます。やがてそれらが学力を支える根幹と

先日、子ども生方も本気になりましたが、大



頭で覚え、いつても身体で覚えなさい。すると、知識に感動できるのですよ。詰め込みでは何も理解できません。ただ、感動してください。

宮澤 賢治

なっていくわけです。たちが考えた「ドッジボールの検沢ルール」について、先って、よりよいルールにしようと話し合っている場面があ変意義のあることです。また、どんぐり班は、社会性を磨くための大切な活動の一つです。学校や家庭における生活体験は、それぞれ子どもたちの成長に意味をもっています。無駄なのは、何もしないことだけです。

**人とのかかわり、自然とのかかわり、地域とのかかわり**と

いう様々な体験は、子ども達の感性を磨き豊かな人間性を育てていきます。子ども達の心の中で、これからの社会を生きるための多様な力が芽生えてくることを信じながら、私たちも同じ目線で誠意と熱意をもってかかわっていきたいと考えます。